

発言者	発言内容
委員長	事務局の説明を踏まえ、計画や事業のどのようなところを重点的に行うといいかなど御意見をいただきたい。

## グループ協議 A班

啓 発	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広報については、いつでも本を手にとれるような環境をつくるのが大切である。</li> <li>○ フラッグを作るのであれば、県民参加型の取組として、子どもたち手作りのポスターなど啓発につながるような成果物を添えてみてはどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小・中・高校において、読み聞かせのグループ活動の拠点を作ってみてはどうか。小学校であれば近隣の保育園・幼稚園に、中学校であれば、近隣の小学校に行って読み聞かせをして、県の「読んで広がる」のシールをもらえたりすると、自分たちも読書県づくりに参加しているという意識をもつのではないか。</li> <li>○ 学校の放送部などの部活動の一つとして、読み聞かせグループを作るような取組を県が推奨してみてはどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書会を行っているが、読書会を行っている団体同士間の情報がない。読書会に行きたいけど、どこに行ってもいいかわからない人が多い。人数や場所、時間帯、年齢層などの読書会を行っている団体の一覧があるとよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美郷町では商工会が買い物したお客さんに「やまびこシール」(ポイントが貯まると買い物ができる金券のようなもの)を配付している。読書活動の推進のために読書した人にも「やまびこシール」を渡したらどうかというアイデアが出された。読書とお金を結びつけることにいろいろな意見もあったが、やってみようという話になった。</li> <li>○ 実際に金券の目的のためだけに新規に読書をする人はいなかったが、これまでも読書をしていた人がより一層読書するようになったという効果はあった。続けるかは課題だが、商工会と連携する取組もあってはいいのではないか。まちライブラリーの発想で、お店にそのお店の特色にあった本をおいてもらって、読書ベンチを置くなどの環境整備も大切である。</li> <li>○ 県全体であがっていく「日本一の読書県」となるといい。施策をとおして県民に広げていくよりも、県民一人一人が自分たちから広げていけるような取組になるとよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書5月号の中におしどりマコさんという芸人の話があった。医学部の大学を途中で退学して芸人になったという経歴をもつ。本人は本が大好きであったが、夫はディスレクシアで本が読めなかった。そこで奥さんは毎晩夫に読み聞かせをした。本の世界がどれだけ楽しいかをどうしても知ってほしかった。す</li> </ul>

	<p>ると夫も本に興味を持ち始め、1冊読み上げた時は大変喜んだとのことである。読み聞かせは「やさしさ」だと感じた話だった。子どもたちに読み聞かせをする場合も同じだと感じた。</p> <p>新井紀子さんの「A I vs 教科書が読めない子どもたち」の話はショックであった。読書をする以前の部分をどう考えていくかという視点も大切である。</p>
委員	<p>○ 本と出会う場があるとよい。トップダウンで進めるよりも、一人一人が違う立場、方法で、「寄せ集め」で本と人をつないでいく取り組むことが読書県につながる。</p> <p>まちライブラリーの取組の中で、例えば県産材の中で廃材があれば、それで読書をするベンチをつくるとか、こっちはこっちでサポートするよとか、それぞれが持っているものを少しずつ持ち寄っていけるとよい。</p>
委員	<p>○ 昨年度フォーラムの講師である紫波町の手塚さんが過疎の町にどう人を引き込むかという取組の紹介があった。これまで本にあまり縁がなかった地元の工業や林業のおじさんたちを巻き込み、図書館で地域の伝統を紹介した。図書館の取組が文化の継承にもつながり、これまで文化の継承をずっとやってきた人たちも報われた。世代を超えて若い人たちも自分たちのまちの文化に触れることで、自己肯定感も生まれた。</p> <p>○ どうしても私たちは「読める」ということを前提に話をしてしまう。読めない人にもできることが絶対あるはずである。</p> <p>○ 県にはエリアコーディネーターがいるので、高校生の力を生かすことも考えられる。高校生などの若い力を巻き込んでいくといずれまた地元に戻ってくれると思う。若い力を社会の中で活用することで、新たな発想も生まれる。</p>
<b>人材育成</b>	
委員	<p>○ ラジオで佐土原町の読み聞かせ研修会があることを聞いた。あまり知られていないので、もっと研修会のことを広報・PRした方がいいのではないかと感じた。他にも研修会のようなものがあると思うが知らずに過ぎてしまっていることも多いのではないか。</p>
委員	<p>○ 読み聞かせのボランティアは県内にたくさんあると思うが、いったいどれだけの団体があるのかということを知ることが大切。その上で横のつながりの場や研修の場の設定、それらを知るための情報提供も必要。ボランティアだけでなく、読書会の情報も共有できるとよい。</p>
委員	<p>○ 園でも研修会を行うが、いつも県外の講師を招いていたが、身近にも素晴らしい方がたくさんいる。そういった講師の情報もいただくとよい。そうするとハードルが高くなく、研修の頻度も増えるのではないか。</p>
委員	<p>○ 地区の婦人会の方が読み聞かせをしてくれている。宮日4月23日付けに読み聞かせをしてもらった児童の作文が紹介された。この児童は、読み聞かせをきっかけに図書館に行き本を借り、地震の対応まで覚え、防災の意識が高まった。読み聞かせをした人もうれしかったと思う。</p>

委員	○ 横のつながりは大切である。読書会がお互いどのようなことをしているのかわからない。読書会のリーダーの集まりのようなものがあると横のつながりができるのではないか。
委員	○ 情報があると読書会がもっと身近なものになり、グループに入ろうかなという思いも出てくるのではないか。
委員	○ 人材育成や啓発の視点から、純粹に本好きが一同に集まるイベントをやってみてはどうか。文化公園の芝の上とかで読書をするようなイベントもいいのではないか。
委員	○ 幼稚園の入園式のあいさつで、あいさつを半分にして、半分は読み聞かせを試してみた。大事に生まれてきたんだよという大人向けの絵本だったが、1才の子どもも静かに聞き入っていた。いろいろなことの趣向を変えるのも面白いと思う。
委員	○ わたしたちの読書会は食べながらとか、バーベキューしながらの読書会もある。本を読まなくてもいいよというスタンスで、とにかく楽しくやっている。これまであまり本を読んでいない人たちには、ハードルを下げることで、読書が楽しくなったという事例もある。 ○ 例えば「中年男子に読ませたい本」「プレゼントしたい本」「映画になった本」などのテーマを決めることで取っつきやすくなる。
委員	○ 絵本は大人向けの絵本もある。読書をあまりしない人たちに、絵本を紹介するのもいいのではないか。
委員	○ ボランティアの意識とは何だろうか。何をもちてボランティアか。よく学年の上の子が、下の学年の子どもたちに読み聞かせをするが、本当に読み聞かせをしたいと思っているのか。動機という部分は大きいのではないか。 ○ ボランティアもやってくれる人をただ集めればよいというのではなく、基本的な部分を育てていくことも大切だと感じる。
<b>環境整備</b>	
委員	○ エリアコーディネーターの「エリア」とはどのくらいを指すのか。
委員	○ 県北・県央・県南の3ブロックに、県内で6名の学校司書エリアコーディネーターを配置している。一人が5～6校を担当し、拠点校を中心に学校図書館の支援や助言、学校図書館の環境整備を行っている。学校には専門の学校司書がない。日本一の読書県をめざす上で、専門の学校司書を置く必要があることから、エリアコーディネーターとして6名配置されている。

委員	○ 県内全域を6名で対応するのは大変ではないか。6名では少ないのではないかな。
委員	○ 拠点校の先生からは、専門の学校司書がいるかいないかで授業が変わる。生徒の図書館活用の仕方も変わるし、読むスキルも上がっているという声をもらっている。学校からはいい意味でたくさんの要望があがってくるが、外に出ることも多いため、なかなか要望に応えられないジレンマもある。 ○ 学校司書の仕事は深く広い。クリエイティブでもある。
委員	○ 学校評議委員の会議は大抵図書室で行われる。図書館を見ると掲示やおすすめの本など、非常に工夫されているように見える。学校司書向けの研修会とかあるのか。
委員	○ 市町村によって違うと思うが、宮崎市内の小学校に関しては支援アドバイザーという人がいて支援している。 ○ 小・中・高という一貫した流れがあるので、人の配置は大切である。 ○ 学校司書エリアコーディネーターの存在や実態を知っている県民が少ないと思う。シンポジウム等で県民にフィードバックしてほしい。そして、県民からの声をもらってほしい。
委員	○ 以前、宮崎市では図書館をすべて調べて、小中学校の整備状況で、悪いところに予算を配分し、人を配置して環境整備を行った事例があった。ピンポイントで支援をする発想は素晴らしいと感じた。宮崎市にできて他のところができないはずがない。
委員	○ 図書館の中では、現在紙の本が中心だが、オーディオブックもあるとよい。本が読めない人もいる。盲学校の生徒も点字の本だけでなく、オーディオブックも活用できる。オーディオブックが図書館にあるとよい。
委員	○ オーディオブックの数が少ないので、増えるとよい。
委員	○ 県病院で入院している子どもたちへの読み聞かせもあるのか。退院してから続きが読みたいと思うのではないかな。投影機のようなものがあれば、ベッドに寝たままで読み聞かせできる。県立図書館の職員が出前読み聞かせをするのもいいのではないかな。
委員	○ 入院している子どもたちにとって読み聞かせは読書をするきっかけになる。
委員	○ 県病院には本が置いてあるのか。いろんな施設に本がおいてあるとよい。

## グループ協議 B班

発言者	発言内容
委員	○ 県民の読書量を増やすという視点で、まず最初にお話ししたい。 ○ 事業全体に関わることであるが、「読まない人をどう読ませるか」という視点よりも、「読む人にもっと読ませるにはどうすればよいか」「プラス1冊の取組」ができるといいのではないかな。このことは、マーケティングの仕方にも見

	<p>ることができる。例えば、「読むとこんなお得がありますよ」という宣伝より、「読まないと損ですよ」の方がいいのではないか。また、「読むと心が豊かになりますよ」というより、「心が貧しいのは・・・」という方がインパクトがある。</p> <p>日本一読書県のポスターやフラッグ、リーフレットを工夫してはどうだろうか。例えば、キャラクターや読書大使（県の読書の代表者）をつくり、それを宣伝の主役にもってくるといいのではないだろうか。読書大使には、この人が薦める本なら読んでみたいと思う人がよい。</p>
--	--

## 啓 発

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「図書館シンポジウム」について、名称が堅すぎるので、例えば、「図書館カフェ」のように、ここに来ると学び（気づき）、楽しさ、本にふれるチャンスがあるという会になると県民も参加すると思う。</li> <li>○ 読書に関する活動を何かやってみたいと考えた時の窓口の明確化（一本化）をお願いしたい。様々な事業を見ても、たくさんの課が関わっており、どこに相談したらいいかわからない。</li> <li>○ 図書館は、ランチ会ができるような、静かな場所でなくてよいという考え方が、広まりつつある。県内の図書館もそうになっていくとよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビブリオバトルは大変よい取組である。今後は、ぜひ大人の飛び入り参加や、近くでの本の販売（紹介された本や新書）を企画に入れてもらえると、さらに盛り上がると思う。</li> </ul>

## 人材育成

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立学校の校長先生は、学校図書館の館長である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校務分掌等の関係で図書館担当者がなかなか図書館業務に専念できない状況にある学校の話聞いたことがある。管理職によって図書購入の予算や図書館経営が大きく変わることもあるため、管理職向けの図書館経営についての研修会をお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立図書館では、選書（実物選書）に関する研修をシリーズで行う。実物を手にとりながらの選書に関しては、民間でもよく研修されており、とてもよい研修である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選書の研修については、都城市の Mallmall でもやっている。業者としてもとてもよいと思っている。</li> <li>○ 昨年度も提案したのだが、読書活動推進委員会公認の「本のソムリエ」という人材をつくってはどうか。その人が薦めた本なら読んでみたいという意欲につながるとよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み聞かせボランティアさんについては、県内各地でがんばっている。研修会もやっているが、県央での研修会が多いので、以前のように、ブロックで研修会をしてもらえるとボランティアさんの増加が見込めるのではないか。</li> </ul>

## 環境整備

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近に本がある環境づくりを目指しているが、現状としては、まだまだなのではないだろうか。最近では、自動車販売店に本が多く置いているようである。</li> </ul>
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館で言うと、都城市は、サービス向上により、来館者が18万人から200万人に増加した。市町村の図書費が増えるといい。</li> <li>○ どこでも本を読んでいる姿を目指すなら、とにかく大人が本を読む姿を見せることが大切である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マイラインサービスは、大変素晴らしい取組である。ぜひ、広く県民への周知をがんばっていただきたい。</li> <li>○ 学校図書館支援センターの設立は、学校図書館の充実や読書活動の充実が、今後継続していくという点において、大変すばらしいことだと思う。ぜひ実現できたらよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図書館には専任の学校司書が常置されるのが当然である。しかし、校内事情ですぐには改善できない学校もあるが常置を目指して欲しい。そのような現状の中では、学校司書エリアコーディネーターは大きな役割を果たしている。増員が難しいことは分かっているが、最低限現状維持をお願いしたい。</li> <li>○ 学校図書についても財源の確保が続くとよい。</li> </ul>

## グループ協議 C班

発言者	発言内容
<b>啓発・人材育成・環境整備</b> ※3つの観点で自由に意見交換したため、3つに分けずに表記。	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が読んだ本を読んでもらうとうれしいし、薦めたくなる。そのようなこともビブリオバトルに入るのか。ビブリオバトルはどのようなものか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビブリオバトルは、1人1冊ずつその本の魅力をプレゼンテーションして、最後にチャンプ本を決めるもの。</li> <li>○ 高校生だけではなく、教員のビブリオバトルをするとよい。教員はなかなか本を読む暇はないが、いい財産を持っている。それを子供たちに紹介できていない。初任研に取り入れるのもよい。若い人が要である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小林の事例だが、学校の読書祭りで、地域と連携して幼稚園から大人まで交えてのビブリオバトルを行ったところがあった。しかし、継続していかないという課題がある。</li> <li>○ 連携はとても重要。みんなで取り組むことが継続につながる。つなぎ役でコーディネーターの役割があるとよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビブリオバトルを学校だけ、子供だけと限定して行う強みももちろんあるだろうが、社会的に見て大多数は誰かを考えたときに、例えば高齢者の存在は欠かせない。ビブリオバトルをいろいろな世代をつなぐ一つの手法と使ってはどうか。本を介在させて関係を築いていくとよい。</li> <li>○ つなぎ役は誰がやってもよい。図書館職員でも、地域づくりをしている人でもよい。協働でやってもよい。</li> <li>○ チャンプ本を決めて、単発で終わってしまうのではなく、それを読み広げて</li> </ul>

	いくというようなことまでであるとよい。
委員	○ 中学生くらいになると、親子関係が難しくなる。そのとき、本を介して話ができる関係ができていいる家庭は、他の人生を共に語る力を持っている。 ○ ビブリオバトルだけでなく、読書に関係する手法はほかにもある。単発で終わらないためにも、核となるハブ的な役割の存在が大事。やはり研修（人材育成）が大事。特に教職員。 ○ 私の経験上、高齢者は勝負にこだわる。チャンプ本を決めるのはどうなのか。
委員	○ 小林の事例では、チャンプ本は決めなかった。
委員	○ 高齢者クラブでチャンプ本を決めて、それをみんなで読んでみる。それを繰り返すと、本からの学びが広がっていくのではないか。
委員	○ チャンプ本を決めた後はアニメーションをするとよい。
委員	○ 地域で盛り上がると、県大会もできる。
委員	○ 各地域で行った後に県大会というのはよい。そのとき、学校の先生に熱意を持ってもらいたい。特に図書館担当の先生方。
委員	○ ビブリオバトルは、プレゼンテーション能力の向上につながるのではないか。今から求められる大事な力だと思う。本だけで留まらず、生涯にわたって必要な能力が培われる。
委員	○ チャレンジ読書公募提案型も家庭での読書にもつながる。最終的な読書済みやざきにもつながっていくと思う。
委員	○ 高齢者の方は本をととても喜ばれる。高齢者を含めた取組もよい。
委員	○ 高齢者が昔読んだ本を若い世代に伝える。そのとき、読んでもらうだけでなく高齢者と子供たちの関係性を持たせられるとよい。啓発にもなるし、つながりをつくることができる。
委員	○ ヨコへの広がりやタテの広がりが期待できる。 ○ このことに限らず、何をするにも毎年、単発で終わっていることが多い。広げていく取組、持続していく取組をしていく必要がある。
委員	○ 目玉を一つ決めるとよい。啓発、人材育成、環境整備という3つの柱があるが、それぞれをするというよりも、目玉となる取組を決めてそこに向かって考えていくと目標も明確になるのではないか。
委員	○ ビブリオバトルは一人だけでなくグループでもできる。実験する人、解説する人、文字で表す人など、1冊の本に向かって取り組んでいく。奥が深い。どう取り上げて、どう伝えるかで読書の興味・関心を広げていく効果があると思う。
委員	○ 国語の授業で取り上げたことがある。序論・本論・結論という流れで組み立ててを練習する意味でもいい取組になった。
委員	○ エリアコーディネーターが高校のみに限定的に配置されているが、元となる学校図書館法からするとどうなのか。本来は、全市町村立、県立、私立高校も含めて全校に学校司書配置という基本は忘れてほしくない。 ○ 司書教諭についても同様で、すべての学校に配置されているはずではあるが、名ばかりになっている。司書教諭という言葉がどこにも出てこないのが現

	<p>実なのだろうと思った。これからの入試制度に関わらず、これから司書教諭は求められているはずだが。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人で学校図書館が変わる。学校図書館が変わると学校が変わる。学校が変わると地域が変わる。小林市では学校図書館支援センターが図書館内にある。市内21の小中学校に対して、14名が学校図書館の支援にあたっている。</li> <li>○ 司書教諭によって違いがあるということも分かった。転勤によって一からやり直しということもある。県が学校図書館の中に学校司書または司書教諭を確保するという事は大事。指導主事が来ないと教員の研修にならないこともあり、指導主事に入ってもらって研修を計画した。担当の先生には本気になってほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校の司書から聞いた話だが、自分が転勤となって新しい学校にいくと、一からやり直しになることが多いという。人によって変わるということは、子供たちにとって不利益なことであって、受ける教育のレベルが違うということになる。例えば、百科事典を揃えても、担当が変わると使われなくなるという話もある。</li> <li>○ 学校図書館協議会も出しているが、「ここでこんな力を身に付けさせましょう」「ここで図書館を活用しましょう」という基準を県で示せると、少なくとも底上げにはなるのではないか。学校・教員によって大きな違いがある。そのためにもやはり研修ではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校だけで取り組むことには限界がある。地域はどんな支え方ができるか。サポートできる人を準備できるか。読み聞かせボランティアはいるが、本を読むプロセスに対して働き掛けができるサポーターになれる地域住民を育成していくことができないか。</li> <li>○ 地域にも力がないという現実もある。一人が何役もしている。既存の仕組みを使うためにも、動ける人が必要だが、先生に求めるのは難しい。どんな仕組みをつくっていくか、地域の人材をどう確保・育成していくか。学校・行政は難しいと思う。</li> <li>○ 活動に参加する仲間をつくる必要がある。フレームをつくっても思いがなければ頓挫する。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入社員で入ってきたときに、即戦力となるかどうかは教育による。社会に出て生きていくための一つのツールとして読書があるのではないか。</li> <li>○ 生涯学習審議会ではコーディネーターの育成の必要性が出された。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3月まで務めていた学校の地区は、昔から地域の結束が固い。総合的な学習の時間をはじめ、学校と地域事務所、まちづくり協議会、社会福祉協議会との連携がとてもうまくいっている。学校はたくさん助けてもらっており、その反対に中学生が地域に出ていくと地域の方はとても喜び、地域に活気が出ると言ってくれる。</li> <li>○ 学校はかなり地域に助けてもらったが、学校図書館がもっとその核になれたのではないかと考えている。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校図書館を地域に開くとおもしろい。誰でも自由に入れて、本を介していろいろな世代がつながれる場所になるとよいのではないか。ただ、誰でも自由に入れるようにする学校のリスクはあると思う。</li> <li>○ 公共図書館にもそのような機能があってよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小林市では地域に開放している図書館がある。空き教室を活用しており、他の教室に自由に入れられないような工夫はしている。</li> <li>○ 市立図書館が近くにない方も多いため、地区にある学校にそのような居場所があるのはよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学生が高齢者に対して認知症の本の読み聞かせをしたことがある。その後、高齢者がその本をずっと読んでいた。</li> <li>○ 子供たちにやりなさいと言ったのではなく、認知症の高齢者に自分たちの力で何かしら関われないかと感じた子供たちが、その本のよさを感じて読んでもらいたいと思ってできたことだった。子供が気付いたことに対してアクションを起こすという活動もよい。</li> <li>○ 場面をつないでいくと負担にもならない。本と一緒に人が関わられるようなことをしかけていくとおもしろい。</li> <li>○ 日向では、17カ所の薬局で認知症の本を置いている。図書館ではないが、同じ機能を持つ場所での取組が始まっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小林でも図書館裏の総合庁舎に本を置いている。すぐに本が手に取れる環境作りを始めている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人材育成の点では、いろいろな世代のサポーター（コーディネーター）がいて、いろいろなやり方でつないでいけるとよいのではないか。</li> <li>○ 自分たちの住んでいるところにこんなところがあると、社会的に教えていくことが必要ではないか。</li> </ul>

## 全体協議

発言者	発言内容
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寄せ集め、本のソムリエという話が出たが、宮崎の読書人といった本をつくれぬか。活字の形でまとめられるとよい。</li> <li>○ 子育て支援の関係事業があるが、図書館とは関係のなさそうな委託事業でも読書で活用できるのではないか。どのように広報していくか、図書館に関わるいろいろなキーワードから考えていき、読書活動関係団体につないでいく専門チームがあってもよい。</li> <li>○ このように具体的なアイデアがあれば出してほしい。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前回も「本のソムリエ」は話題になり、身近に本を薦めてくれる人がいると読む気になるという意見も出ていたので、実際にやってみてはどうか。本のソムリエを育成する、県内で認定するといったことができるとうよい。</li> <li>○ 例えば、キャラクターをつくる、県出身の作家や漫画家に読書大使のような役割を担ってもらい、県民に声かけができないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今、学校図書館の改装に取り組んでいる。小学校で行い、2校目も決まっている。そのようなこともおもしろい。</li> <li>○ 大学では「いつか教師になるあなたたちへ」として、これから教師を目指す学生が人権に対する興味・関心を高め、教師になったときに何回か授業ができるような取組をしてもらっているが、これの読書の取組もできるのではないか。子どもたちに身近な学校の先生たちをどう育てるかという視点で取り組めることだと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 八戸市で「マイブッククーポン」という市内小学生に2,000円分のクーポンを渡す取組をしている。使用率は95%。本を手にとってもらう取組としては有効であると思った。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育バウチャーはいろいろなところでなされていて、寄付もしやすい。子ども食堂などでも行われている。企業が防犯ブザーやランドセルカバーなどの寄付をしているが、学校に図書を寄付するというのもあってよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寄付をすると税金を控除するというしくみもある。県もそのようなことをすると、お金も関心も集められるのではないか。先ほどの図書館の改装工事のように、そのお金の使い方として、何に使うかを選んでもらえるとうよい。</li> <li>○ 図書館に本を読みに行くというよりも図書の先生と話に行く楽しみもあるので、そのような環境を整えることも大事だと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校と保護者と図書館が連携して、学校が終わったら図書館へ行き、保護者が図書館に迎えに来るという放課後の取組ができないか。児童クラブはあるが、上学年は対象ではない。地域の子供たちを見守る場所としての図書館、居場所としての図書館があるとよい。そこに司書が介在するのもよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それに高齢者も加えるとよい。高齢者も見守りが必要。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都城の Mallmall をコーディネートされた方が話していたことだが、図書館は静かな空間ではなく、公民館のような新しい形のものであり、子供たち、高齢者を含めた様々な人たちの居場所であるとのことだった。学校でもない、家庭でもない、くつろげる場所が必要なのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そのような場所が利便性のよいところにあるとうよい。高齢者も行ける場所にあるのがよい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学近くのホテルでは、漫画を置いたところ小中学生が多く集まる場所になっている。人が集まっている場所を図書館化していくという発想もある。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人の配置や研修の重要性と、ハブ的な役割を果たす学校図書館支援センターの重要性は指摘されているので、それ以外の多様な視点からのアイデアをいただいで、全体として読書活動の推進がなされていくとうよい。</li> </ul>